

「2023 年度法人事業計画の到達」

I. 2023 年度の特徴を端的に示す情勢をあげると、

- ① ロシアによるウクライナ侵攻から 2 年が経過したが、いまだに解決を見通せない中、イスラエルがガザ地区を無差別攻撃するという暴挙に出た。グローバルサウスと呼ばれるアジア、アフリカ、中南米諸国が国連憲章に結集し事態の早期解決を求めるのに対し、世界の平和秩序の回復・維持に「大国」が役割を果たせないことが明らかになった。
- ② 安倍政権、菅政権の新自由主義路線をそのまま継承する岸田政権は、安保 3 文書に基づく防衛予算の極端な増大の一方で、医療と社会福祉にかかわる公的責任を大幅に後退させている。それに対する京都市の姿勢は、民間保育園等給与補助事業の継続に表れているように、住民の生活を守る立場には立っていない。
- ③ 能登半島地震では、いまだに断水が回復していない地域が少なからず存在し、仮設住宅の建設も需要に見合っていないことなど、地理的に困難な事情を有する地域での復興の課題が明らかになる一方で、政府・自治体の対応の遅れが目立った。さらに日本に原発を設置することの危険性があらためて浮き彫りとなった。
- ④ 4 年間にわたるコロナ禍は貧富の格差を一層拡大し、社会的・経済的弱者により大きなダメージを及ぼした。この間に起きた医療ひっ迫や高齢者留め置き問題に対する十分な総括もなされないまま、多くの専門科の疑問にもかかわらず、経済的視点から昨年 5 月に、感染症法の 5 類へと位置づけが変更された。

このように 1 年を振り返ってみると、国の内外を問わず平和的生存権がいつそう充実し人々が安全な環境に住み安心した生活を送れる方向には向かっていないといわざるを得ない。その影響は福祉の現場にも多大な影響を及ぼしている。

II. こうした状況の中で、当法人の 2023 年度の到達を要約すると、

- ① 事業活動収支は黒字計上で、減益となった。その中で介護事業が黒字となった。
- ② 保育事業は市による給与補助金削減のもとで、管理者と職員との間での真摯な話し合いをもとに、それぞれの理解と努力により分断を深めることなく解決方向を見いだすことができた。双方の努力に心からの敬意を払いたい。
- ③ 児童発達支援事業は、新たな事業所開設と円町パーチェの今後の在り方についての基本方向を確認することができた。

これらはいずれも次年度以降の事業活動に向けての貴重な到達であることを確認しておきたい。

III. 以下では昨年度事業計画の項目に沿って到達をまとめる。

1. 介護事業

・西の京の超強化型の安定的な運用

コロナ過による入所制限、その後の入所者数回復の遅れなど経営に及ぼすマイナスの影響にもかかわらず活動収支は黒字計上となった。その主たる要因は超強化型の取得（2022年5月）と思われる。一方で超強化型の維持が容易ではないことも明らかとなった。4月以降在宅復帰率50%を割り込む状況が継続し、9月になってようやく回復した。この事態に対して入所前後・退所前後訪問等にフロア職員やリハ職員が関与する中で必要なポイントを維持することができたが、超強化型の維持には意識的な努力が求められた。2024年4月からの介護報酬改定では指標基準が厳しくなることも踏まえ、超強化型の安定的運用は今後も重要な課題となる。

・虹の家の自前施設の確保

物件選定の段階に来ており、可及的早期に具体化する

・介護の新たな地域展開を見据え、地域の介護要求と介護資源の調査、京都保健会介護部、太子道診療所との協議、友の会との連携を進める

京都保健会介護部等との協議が開始され、看護多機能事業所新設の方向で場所、運営法人などの協議が開始されているが、まだ新たな事業展開を見通せる段階には至っていない

2. 児童分野（保育・児童支援）

・京都市の民間保育士等補助金削減に伴う対応、賃金等のあり方の検討と具体化

これまでの黒字基調から一転して赤字を計上するに至った。施設長会議、職員討議を重ねた結果、2024年度から給与体系変更（プール制賃金体系を基本に、経験年数の比較的少ない職員には賃金引上げ、経験年数の長い職員に対しては定期昇給を引き下げる内容）を実施することを確認した。

・入園希望者減の中での各保育園の課題

白い鳩保育園・洛西保育園の定員削減を行う方向を確認。

一方で恒常的に定員を上回る受け入れ状態が続いている南区の2か園の定員の考え方についても整理していく

・児童支援事業の管理者・児童発達支援計画管理責任者を担える人材養成

計画的に研修派遣を行い一定の前進を得たが、全体の職員体制の厳しさなどもあり今後も重視していく必要がある

・児童発達支援事業の立ち上げに向けた準備に入る

候補用地を確保できた（その後の検討で南区のあらぐさ保育園敷地内に開設する方向を確認している）。幹部体制の討議はこれからの課題で、児童部会での討議をまつ。現時点での確認は2025年春開設の方向

なお昨年度にあげた事業計画には反映されていないが、昨年7月、京都市が長年に

わたって維持してきた京都方式が廃止された。療育に至るまでの家族を支え適切に療育につなぐうえでの行政責任、そして当法人にとっては利用者確保に及ぼす影響の2点が主たる問題となった。行政、他の療育施設の参加も得てネットワークを立ち上げ、学び交流する場が発足したこと、法人各事業所では見学に來られた段階から保護者とのつながりを強めるための工夫を具体的に対応した。

3. 障がい者の生活支援施設の政策動向・地域実態の調査研究と情報収集を行う

- ・研究者から在宅重度知的障がい者の置かれている状況、および暮らしの場に対する切迫する要求についてレクチャを受ける。
- ・近隣のグループホーム運営法人の担当者から運営の実際についてレクチャを受ける。概要は、経営的には大きな赤字を出すものではないが、利用者・スタッフの確保が課題となること、近隣との関係も難しい問題であること、など。
- ・障がい者の生活施設に関する「きょうされん」の全体的なとらえ方と動きについて情報を得る目的で西京区にある生活介護施設「はるの里」の施設長他と懇談を実施。概要は、多くの就労支援事業所において利用者の高齢化が進み、生活施設への要求は高いこと、一方で各々の施設の持つ歴史と地域性から連携・統一した施設づくりの方向は一致を得にくい状況にあること、また在宅生活を支えるヘルパー事業が極めて重要であること、など。
- ・現時点の判断として、当法人単独事業は困難であり、障害福祉事業所法人との連携が必要で、今後はその協議に入ることが求められる

4. 法人機能・体制強化の検討に入る

- ・介護事業部において幹部人事の世代交代を行った（施行は2024.4から）
- ・法人常務の嘱託延長契約の終了（2025年6月）を控え、あらためて京都民医連に事務系幹部の派遣を要請した。県連・京都保健会で検討が進められたが、結論的には要請への対応は困難という状況である。今後は法人内での人選、法人運営の形態などを含めて早急に具体的な対応に入ることが求められる。

2023年度決算・事業報告

1. 2023年度の特徴

2023年度の予算は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮せずに組み立てたが、5類に変更された以降も職員の間、施設内利用者や児童の感染など引き続くコロナ対応が求められ、職員の疲弊感とともに経営的にも打撃をうけた。

- ① 保育事業分野は、当期活動増減差額の保育園合算で法人設立以来初めての赤字となった。京都市の補助金削減と受入児童数の減少が相まって厳しい経営となった。2023年度予算は▲1,730万円の赤字予算を止むを得ないとするも、様々な努力で▲1,167万円の赤字に抑える事が出来た。
- ② 介護事業分野は、当期活動増減差額の全事業所合算で1,977万円の黒字となったが、物価高騰・食材支援補助金が介護事業全体で2,106万円が含まれ、補助金を除くと▲129万円の赤字となる。老健西の京は、補助金を除いて618万円の黒字（前年比3,504万円の改善）と健闘した。
- ③ 児童支援事業分野は、保育事業より2名の出向職員を受入れたが、病欠などで職員体制が安定しない中で、児童数は予算目標に届かなかった。当期活動増減差額は2,907万円（予算比121.8%）の黒字となった。
- ④ 積立金の取崩しと積立金について

- ・保育事業の積立金の取崩し

洛西保育園…大規模改修、2階の窓枠改修等の費用に充てる。施設・設備整備積立金の取崩し22,00万円

白い鳩保育園…賞与などの支払資金に充てる。人件費積立の取崩し800万円

※予算が必要があればとした、洛西・あらぐさ・青い空保育園の人件費取崩しは行わなかった。

- ・介護事業所の退職資金積立金2,000万円（予算）の積立は行えなかった。

- ・各保育園の決算状況の見直しにより（各保育園の当期末支払資金残高と委託費の減少傾向の比率等を考慮し）、以下の各保育園の積立金を行った。

<白い鳩保育園> 人件費積立金900万円

<あらぐさ保育園>人件費積立金300万円

<青い空保育園> 人件費積立金400万円、施設・設備整備積立金400万円

2. 2023年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は15億69,96万円となり、予算比で100.8%、1,204万円増（前年比98.0%）となった。但し、収益には予算に計上していない物価高騰、食材支援補助金等2,755万円を含んでいる。

事業毎では、介護事業：前年比100.6%・予算比102.0%、保育事業：前年比94.0%・予算比101.5%、児童支援事業：前年比101.8%・予算比92.3%となった。

サービス活動費用は、15億2,807万円、予算比99.7%、▲484万円費用減となった。

事業毎では、予算比で、介護事業100.5%、保育事業100.4%、児童支援事業87.0%となった。

人件費は、人件費率76.1%、予算比で100.9%、1,071万円の増となった。

事業毎の人件費率は、介護事業70.3%、保育事業82.9%、児童支援事業65.3%となった。

当期活動増減差額は、法人合計で4,857万円の黒字（収益比率3.1%、予算差額3,825万円増）となった。

事業毎では、保育事業▲1,167万円の赤字、児童支援事業2,907万円・介護事業1,977万円の黒字となった。

<事業活動収支計算書 概要>

単位：千円

		サービス活動収益計	サービス活動費用計	サービス活動増減差額	経常増減差額	当期活動増減差額
介護事業	2023年度実績	808,719	780,945	27,773	32,956	19,779

	2023 年度予算	793,120	777,333	15,786	14,236	357
	2022 年度実績	804,176	772,309	31,877	36,345	16,463
	予算比	102.0%	100.5%	175.9%	231.5%	5540.3%
	前年比	100.6%	101.1%	87.1%	90.7%	120.1%
保育事業	2023 年度実績	611,890	606,243	5,647	5,955	▲ 11,679
	2023 年度予算	602,913	604,009	▲ 1,095	2,654	▲ 17,301
	2022 年度実績	650,750	632,818	17,932	22,499	2,475
	予算比	101.5%	100.4%	-515.7%	224.4%	67.5%
	前年比	94.0%	95.8%	31.5%	26.5%	-471.9%
児童支援事業	2023 年度実績	149,352	114,044	35,308	35,888	29,074
	2023 年度予算	161,882	131,056	30,826	30,462	23,862
	2022 年度実績	146,771	109,930	36,842	36,452	31,124
	予算比	92.3%	87.0%	114.5%	117.8%	121.8%
	前年比	101.8%	103.7%	95.8%	98.5%	93.4%
法人合計	2023 年度実績	1,569,963	1,528,072	41,890	51,162	48,576
	2023 年度予算	1,557,916	1,532,917	24,999	13,319	10,324
	2022 年度実績	1,601,697	1,546,537	55,171	67,813	56,658
	予算比	100.8%	99.7%	167.6%	384.1%	470.5%
	前年比	98.0%	98.8%	75.9%	75.4%	85.7%

	サービス活動収益計	サービス活動費用計	サービス活動増減差額	経常増減差額	当期活動増減差額
予算比	12,047	▲ 4,845	16,891	37,843	38,252
前年比	▲ 31,734	▲ 18,465	▲ 13,281	▲ 16,651	▲ 8,082

資金収支差額合計は、保育事業の積立資産支出 2,000 万円を行い、415 万円の黒字となった。

事業活動資金収支差額は 8,445 万円、設備資金借入金 6,000 万円、積立資産取崩 3,000 万円等の収入で、固定資産取得支出 1 億 998 万円（内補助金 691 万円）と借入金元金返済 4,766 万円、積立資産 20,000 万円の対応をした。

固定資産取得の主なものは、老健西の京・洛西保育園の大規模改修 6,772 万円、パーチェ・第二パーチェの屋上防水改修 998 万円、パーチェ・第二パーチェ相談室の改修等 696 万円、洛西保育園の 2 階窓枠等改修 664 万円、青い空保育園幼児保育室拡張改修 233 万円等であった。

老健西の京開設時の借入金 6 億 7,000 万円は今年度で完済となった。

<資金収支計算書 概要>

単位：千円

	事業活動資金 収支差額	設備資金借入金 収入	積立資産取崩 収入	設備資金借入金 元金償還支出	固定資産取得 支出	積立資産支出	当期資金収支 差額
23 年度実績	84,454	60,000	30,000	47,664	109,985	20,000	4,155
23 年度予算	69,383	60,000	55,000	50,022	72,556	0	60,882
22 年度実績	117,977	0	15,290	44,628	39,983	24,000	26,282
予算比	121.7%	100.0%	54.5%	95.3%	151.6%		6.8%

前年比	71.6%		196.2%	106.8%	275.1%	83.3%	15.8%
-----	-------	--	--------	--------	--------	-------	-------

総資産は、28億3,933万円で前年度より3,349万円の増加となった。流動資産は、事業活動収支の結果等で1,281万円の増加となった。固定資産は、積立金等の増加、新たな固定資産の取得、減価償却減の差引で2,068万円の増加となった。

負債は、5億6,716万円で、前期より211万円の増加となった。今期新たな借入金6,000万円（老健西の京の大規模改修資金）を京都銀行本店から借り入れた。

純資産は、当期活動収支差額の黒字、国庫補助金の積立・償却減等の結果、22億7,217万円で、3,137万円の増加となった。

<貸借対照表>

単位:千円

	2023年度	2022年度	前期差額
総資産	2,839,337	2,805,843	33,494
流動資産	808,520	795,710	12,810
固定資産	2,030,817	2,010,134	20,683
負債	567,161	565,042	2,119
流動負債	191,464	205,474	▲ 14,010
固定負債	375,696	359,568	16,128
純資産	2,272,176	2,240,801	31,375
次期繰越活動差額	1,094,281	1,035,704	58,577
内当期活動差額	48,576	56,658	▲ 8,082

2. 各分野の状況

(1) 介護事業

特養都和のはなのベッド利用率は98.7%（予算比100.7%）で稼働目標を達成した。退所者は7人（看取り2人）、入院中の空き室は96日で、内ショートは22日の活用をおこなった。入居者のコロナ感染は1人、その他、職員や家族の感染が7人発生し、対応に追われた。次年度より、食事を西の京の委託業者（魚国）から宅配（グローバルキッチン）に変更する準備を進めている。

当期活動増減差額は▲289万円の赤字となった。人件費が、予算比106.8%（550万円の超過）となった事が大きな要因となっている。物価高騰対策の補助金等は275万円であった。

老健西の京のベッド利用率は91.7%（予算比98.6%）となった。入所者のコロナ感染は2回、インフルエンザ感染が1回発生し、11月以降空床を埋めきれずに推移した。前年に取得した超強化型加算を維持するために、入所前後・対象前後の訪問等、入所職員やリハ職員等の多職種が関与する中で必要なポイントを維持することが出来た。

通所リハビリテーションは、1日平均18.8人（予算比85.5%、前年度17.1人）と目標に対し乖離はあるが、この間続く減少を食い止めている。9月～ふれあいサロン（オープンディ：月1回開催）を開始した。

外壁・屋上の防水等の大規模改修を行った。必要な資金は京都銀行より借り入れた。

当期活動増減差額は2,242万円の黒字となった。物価高騰対策の補助金等1,624万円あったが、人件費などサービス活動費用は予算比99.7%に抑え、補助金を除いても618万円の黒字と健闘した。

グループホーム都和のはなの利用率は97.6%（予算比100.6%）で稼働目標を達成した。コロナ感染は1回、職員1人、入居者5人が感染した。退所者は1人（看取り）だった。当期活動増減差額は268万円の黒字となったが、物価高騰対策

の補助金等 202 万円、前年度感染対策補助金 159 万円が含まれている。

ケアステーション虹の家の訪問介護は 44.3 件/月 (予算比 94.3%) でした。職員の体制が厳しく、新しい利用者の希望はあるものの受入が出来ていない。当期活動増減差額は▲244 万円の赤字となった。

<介護事業 稼働数>

		23 年度実績	23 年度予算	22 年度実績	予算比	前年比
特養都和のはな	入所(利用率)	98.7 %	98.0 %	98.1 %	100.7%	100.6%
老健西の京	入所(利用率)	91.7 %	93.0 %	86.8 %	98.6%	105.6%
	通所(1 日平均利用数)	18.8 人	22.0 人	17.1 人	85.5%	109.9%
GH 都和のはな	入所(利用率)	97.6 %	97.0 %	92.7 %	100.6%	105.3%
虹の家	訪問介護 (月件数)	44.3 人	47.0 人	43.0 人	94.3%	103.0%

<介護事業 事業活動収支計算書 概要>

単位：千円

科目		23 年度実績	構成比	23 年度予算	22 年度実績	予算比	前年比
特養 都和のはな	収益合計	114,423	100.0%	112,546	117,077	101.7%	97.7%
	人件費	85,986	75.1%	80,478	81,381	106.8%	105.7%
	費用合計	116,129	101.5%	110,758	111,326	104.8%	104.3%
	サービス活動増減差額	▲ 1,706	-1.5%	1,788	5,761	-95.4%	-29.6%
	経常増減差額	▲ 1,883	-1.6%	914	4,867	-206.0%	-38.7%
	当期活動増減差額	▲ 2,894	-2.5%	314	731	-921.7%	-395.9%
老健 西の京	収益合計	624,123	100.0%	609,646	588,545	102.4%	106.0%
	人件費	426,177	68.3%	422,524	425,273	100.9%	100.2%
	費用合計	594,456	95.2%	596,364	592,896	99.7%	100.3%
	サービス活動増減差額	29,666	4.8%	13,282	▲ 4,351	223.4%	-681.8%
	経常増減差額	35,312	5.7%	12,922	1,327	273.3%	2661.0%
	当期活動増減差額	22,425	3.6%	499	▲ 12,622	4494.0%	-177.7%
GH 都和のはな	収益合計	49,470	100.0%	49,547	45,812	99.8%	108.0%
	人件費	36,042	72.9%	37,289	37,007	96.7%	97.4%
	費用合計	47,471	96.0%	48,248	47,823	98.4%	99.3%
	サービス活動増減差額	1,999	4.0%	1,298	▲ 2,011	154.0%	-99.4%
	経常増減差額	1,711	3.5%	982	▲ 2,327	174.2%	-73.5%
	当期活動増減差額	2,688	5.4%	366	▲ 3,929	734.4%	-68.4%
虹の家	収益合計	20,702	100.0%	21,379	52,742	96.8%	39.3%
	人件費	20,223	97.7%	19,219	17,580	105.2%	115.0%
	費用合計	22,887	110.6%	21,961	20,264	104.2%	112.9%
	サービス活動増減差額	▲ 2,184	-10.5%	▲ 582	32,478	375.3%	-6.7%
	経常増減差額	▲ 2,184	-10.5%	▲ 582	32,478	375.3%	-6.7%
	当期活動増減差額	▲ 2,440	-11.8%	▲ 822	32,284	296.8%	-7.6%
合計	収益合計	808,719	100.0%	793,120	804,176	102.0%	100.6%

人件費	568,428	70.3%	559,211	561,241	101.6%	101.3%
費用合計	780,945	96.6%	777,333	772,309	100.5%	101.1%
サービス活動増減差額	27,773	3.4%	15,786	31,877	175.9%	87.1%
経常増減差額	32,956	4.1%	14,236	36,345	231.5%	90.7%
当期活動増減差額	19,779	2.4%	357	16,463	5540.3%	120.1%

(2) 保育事業

白い鳩・洛西保育園は、定員割れがおり、特に0歳児の受入が大きく減少した。

各園の児童延べ人数は、白い鳩保育園 1,296人(1か月平均108人、前年度比89.6%、0歳児9.2人)、洛西保育園 1,348人(1か月平均112人、前年度比86.1%、0歳児6.0人)、あらくさ保育園 701人(1か月平均58人、前年度比98.5%、0歳児9.1人)、青い空保育園 849人(1か月平均71人、前年度比98.4%、0歳児10.5人)となり、保育事業合計で1か月平均349.5人(1か月平均▲32人)、前年比91.5%、児童数の大幅な減員となった。

厳しい環境の下で、2024年度からの給与体系について労働組合と合意ができた。給食職員の給与体系を保育士体系と一本化し、新卒から11年目までの職員のベースアップ、11年目以降の職員の定期昇給を4号俸から2号俸に変更する事になった。

白い鳩保育園は、年度当初の職員アンケートで8名が退職・異動希望と驚いたが、個々複数回の面談と職員会議や総括会議の運営の工夫等、若い職員が声を出しやすい様に運営する中で2名の退職に留まった。

コロナ対応の緩和により、数年ぶりの行事が多くあり、内容の見直しと未経験の職員との打ち合わせを丁寧に進めた。

当期活動増減差額は▲666万円(予算▲569万円)の赤字となった。委託費が予算比106.0%で、京都市の補助金が予算を大幅に落ち込んだ(76.2%)。委託費が前年より▲921万円の減少により、当期末支払資金残高を減らすために900万円の人件費積立金を行った。

洛西保育園は、老健西の京と合わせて外壁・屋上の防水等の大規模改修を行った。同時に2階保育室の窓枠の交換等を行い外見が綺麗になった。必要資金は積立金を取り崩した。京都市の老朽化対象園(補助金対象)となったが、3つに分かれた園舎の内1つの建物だけが対象となり、今後の保育のあり方等を検討する中で申請を見送った。

不適切保育の事案が発生し、対象職員・クラスの現状評価と援助体制、保育園全体として振り返り等進め、保護者対応、京都市への報告を行ったが、実害がない事・保育園として丁寧に対応している事から問題無しとなった。

当期活動増減差額は▲1,186万円(予算▲227万円)の大きな赤字となった。京都市の補助金の予算比82.0%の落ち込みと人件費増が要因となっている。

あらくさ保育園は、WEBカメラの設置で「食べ物を保育園にもちこみ置いていく保護者」を確認し園長が対応、クラスの担当者には本件ではなく保育園への思いなどを聞いてもらうように促した。以後、不審なものが置かれていない。12月にインフルエンザ感染とコロナ感染が同時に広がり、職員8人が罹患し保育体制を取るのが大変だった。

当期活動増減差額は▲55万円(予算▲340万円)の赤字となった。委託費、京都市の補助金共に予算を上回った。

青い空保育園は、0歳児を初めて10人を超えた受入れを行った。保育室は狭く現場はかなり混乱したが、職員体制を厚くし対応した。1月後半からインフルエンザ感染が急増、同時期にコロナ感染も流行り職員8人園児4人が罹患した。

保護者の出欠管理をメールに移行、大きな混乱もなく保護者に好評、職員も電話対応・事務等の負担が減った。

当期活動増減差額は740万円(予算▲592万円)の黒字となった。委託費、京都市の補助金共に予算を上回り、支出も予算内に収まった事で、前年の唯一の赤字から唯一の黒字となった。

<児童数>

保育園	児童数	23年度	23年度予算	22年度	予算比	前年比
白い鳩保育園	年間児童数	1,296	1,296	1,446	100.0%	89.6%
	月平均児童数	108.0	108.0	120.5		
洛西保育園	延べ児童数	1348	1,344	1,565	100.3%	86.1%
	月平均児童数	112.3	112.0	130.4		
あらぐさ保育園	延べ児童数	701	708	712	99.0%	98.5%
	月平均児童数	58.4	59.0	59.3		
青い空保育園	延べ児童数	849	840	863	101.1%	98.4%
	月平均児童数	70.8	70.0	71.9		
合計	延べ児童数	4,194	4,188	4,586	100.1%	91.5%
	月平均児童数	349.5	349.0	382.2		

<保育事業 事業活動収支計算書 概要>

単位：千円

保育園	科目	23年度実績	構成比	23年度予算	22年度実績	予算比	前年比
白い鳩 保育園	サービス活動収益	162,853	100.0%	163,225	179,470	99.8%	90.7%
	人件費	139,437	85.6%	137,322	146,853	101.5%	95.0%
	サービス活動費用	163,920	100.7%	164,705	173,767	99.5%	94.3%
	サービス活動増減差額	▲ 1,067	-0.7%	▲ 1,479	5,703	72.1%	-18.7%
	経常増減差額	▲ 892	-0.5%	308	7,546	-289.6%	-11.8%
	当期活動増減差額	▲ 6,663	-4.1%	▲ 5,691	2,651	117.1%	-251.3%
洛西 保育園	サービス活動収益	171,594	100.0%	177,908	201,253	96.5%	85.3%
	人件費	144,307	84.1%	140,659	158,815	102.6%	90.9%
	サービス活動費用	177,458	103.4%	174,206	194,430	101.9%	91.3%
	サービス活動増減差額	▲ 5,864	-3.4%	3,702	6,822	-158.4%	-86.0%
	経常増減差額	▲ 5,850	-3.4%	3,721	7,178	-157.2%	-81.5%
	当期活動増減差額	▲ 11,868	-6.9%	▲ 2,279	1,202	520.8%	-987.4%
あらぐさ 保育園	サービス活動収益	128,669	100.0%	121,814	126,429	105.6%	101.8%
	人件費	105,330	81.9%	102,564	101,332	102.7%	103.9%
	サービス活動費用	125,243	97.3%	123,744	122,734	101.2%	102.0%
	サービス活動増減差額	3,426	2.7%	▲ 1,930	3,696	-177.5%	92.7%
	経常増減差額	3,473	2.7%	▲ 408	5,226	-851.2%	66.5%
	当期活動増減差額	▲ 555	-0.4%	▲ 3,409	795	16.3%	-69.8%
青い空 保育園	サービス活動収益	148,773	100.0%	139,964	143,598	106.3%	103.6%
	人件費	118,303	79.5%	118,388	119,242	99.9%	99.2%
	サービス活動費用	139,621	93.8%	141,352	141,887	98.8%	98.4%
	サービス活動増減差額	9,152	6.2%	▲ 1,388	1,711	-659.4%	534.9%
	経常増減差額	9,225	6.2%	▲ 965	2,549	-956.0%	361.9%

	当期活動増減差額	7,408	5.0%	▲ 5,921	▲ 2,175	-125.1%	-340.6%
合計	サービス活動収益	611,890	100.0%	602,911	650,750	101.5%	94.0%
	人件費	507,378	82.9%	498,933	526,242	101.7%	96.4%
	サービス活動費用	606,243	99.1%	604,007	632,818	100.4%	95.8%
	サービス活動増減差額	5,647	0.9%	▲ 1,095	17,932	-515.7%	31.5%
	経常増減差額	5,955	1.0%	2,656	22,499	224.2%	26.5%
	当期活動増減差額	▲ 11,679	-1.9%	▲ 17,301	2,473	67.5%	-472.3%

(3) 児童支援事業

児童支援事業分野は、京都方式の廃止により保護者が療育事業所を「選ぶ(探す)」状況の中、次年度待ちではなく「空き」が無ければ、すぐに利用できる事業所を選ぶという状況が起っている。一方、事業所にたどり着けない保護者もあり、京都市を巻き込んだ事業所間のネットワークを築き、保護者支援の取組を広げていく事が大切になっている。

2023年度は保育事業から2名の出向を受け入れ連携を強めたが、職員体制が安定せず、受入児童数は目標に届かなかった。児童発達支援事業の利用状況は、パーチェ年間2,796人(1日当たり9.7人、予算比97.0%・前年比96.0%)、第二パーチェ年間2,811人(1日当たり9.7人、予算比97.0%・前年比102.10%)、パーチェ梅小路年間2,860人(1日当たり9.9人、予算比99.0%・前年比105.3%)、合計で予算比97.7%(前年比101.0%)となった。

相談支援パーチェは、計画相談240件(月平均20.0件)モニタリング226件(月平均18.8件)、合計で466件(前年比106.2%)となった。

南区に新しく児童発達支援事業所を作る計画は、児童支援事業部、保育事業部で協議を進め、予定地をあらぐさ保育園園庭とし準備を進めている。また、パーチェ・第二パーチェの同敷地内施設の今後の展開を検討し、南区の新規事業所は第二パーチェを移転する事を確認した。

サービス活動収益は、パーチェは予算比90.8%・前年比94.8%、第二パーチェは予算比92.3%・前年比102.8%、パーチェ梅小路は予算比93.8%・前年比108.0%、相談支援パーチェは予算比91.20%・前年比104.3%、全事業合計で予算比92.3%(▲1,253万円の未達成・前年比101.8%)となった。

サービス活動費用は、前年比103.7%、予算比870%(▲1,701万円の減少)に止まり、結果として費用を大きく抑えた。

当期活動増減差額は、パーチェ1,117万円、第二パーチェ1,002万円、パーチェ梅小路693万円、相談支援事業パーチェ93万円、合計2,907万円の黒字(予算比121.8%)となった。

<児童支援事業 児童数>

児童発達支援	2023年度			2022年度	1日当り増減	
	利用者数(延)	1日当り	1日当り予算	1日当り	予算比	前年比
パーチェ	2,796	9.7	10.0	10.1	97.0%	96.0%
第二パーチェ	2,811	9.7	10.0	9.5	97.0%	102.1%
パーチェ梅小路	2,860	9.9	10.0	9.4	99.0%	105.3%
合計	8,467	29.3	30.0	29.0	97.7%	101.0%

児童相談支援	計画相談	モニタリング	23年度合計	22年度合計	予算比	前年比
相談支援パーチェ	240	226	466	439	97.1%	106.2%

<児童支援事業 事業活動収支計算書 概要>

単位：千円

	科目	23年度実績	構成比	23年度予算	22年度実績	予算比	前年比
パーチェ	サービス活動収益	46,517	100.0%	51,207	49,084	90.8%	94.8%
	人件費	28,804	61.9%	34,379	30,481	83.8%	94.5%
	サービス活動費用	33,689	72.4%	41,492	35,090	81.2%	96.0%
	サービス活動増減差額	12,828	27.6%	9,714	13,994	132.1%	91.7%
	経常増減差額	13,116	28.2%	9,533	13,796	137.6%	95.1%
	当期活動増減差額	11,174	5.5%	7,733	12,591	144.5%	88.7%
第二 パーチェ	サービス活動収益	47,226	100.0%	51,169	45,939	92.3%	102.8%
	人件費	30,527	64.6%	32,979	28,946	92.6%	105.5%
	サービス活動費用	35,091	74.3%	39,727	33,126	88.3%	105.9%
	サービス活動増減差額	12,135	25.7%	11,442	12,814	106.1%	94.7%
	経常増減差額	12,426	26.3%	11,257	12,610	110.4%	98.5%
	当期活動増減差額	10,026	21.2%	8,857	10,798	113.2%	92.9%
パーチェ 梅小路	サービス活動収益	47,950	100.0%	51,105	44,407	93.8%	108.0%
	人件費	32,771	68.3%	37,299	28,034	87.9%	116.9%
	サービス活動費用	38,614	80.5%	43,746	34,719	88.3%	111.2%
	サービス活動増減差額	9,336	19.5%	7,359	9,688	126.9%	96.4%
	経常増減差額	9,336	19.5%	7,362	9,699	126.8%	96.3%
	当期活動増減差額	6,936	14.5%	4,962	7,370	139.8%	94.1%
児童相 談支援 パーチェ	サービス活動収益	7,658	100.0%	8,400	7,341	91.2%	104.3%
	人件費	5,445	71.1%	4,800	5,842	113.4%	93.2%
	サービス活動費用	6,649	86.8%	6,090	6,995	109.2%	95.1%
	サービス活動増減差額	1,008	13.2%	2,310	346	43.6%	291.3%
	経常増減差額	1,009	13.2%	2,310	347	43.7%	290.8%
	当期活動増減差額	936	12.2%	2,310	364	40.5%	257.1%
合算	サービス活動収益	149,352	100.0%	161,882	146,771	92.3%	101.8%
	人件費	97,549	65.3%	109,458	93,303	89.1%	104.6%
	サービス活動費用	114,044	76.4%	131,056	109,930	87.0%	103.7%
	サービス活動増減差額	35,308	23.6%	30,826	36,842	114.5%	95.8%
	経常増減差額	35,888	24.0%	30,462	36,452	117.8%	98.5%
	当期活動増減差額	29,074	15.7%	23,862	31,124	121.8%	93.4%

3. 法人運営

①理事会の出席率は100.0%（監事100.0%）、評議員会は、88.9%（監事100.0%）となった。

藤原冬樹評議員が体調の関係で辞任し、新たに竹下清評議員を選出した。

②毎月定期的に法人事務局会議（理事長・常務理事・介護事業部長・保育事業部長・児童支援事業部長で構成）を開催し、事業計画の推進、各分野の課題の対応等を図った。今期で定年退職を迎えた坪田美也子介護事業部長が退任した。

4. 利益処分の提案

以下のように利益処分を行う。

単位：円

今期繰越利益	48,576,535
積立金	▲ 20,000,000
積立資産取崩額	30,000,000
次期繰越増減差額に繰入	58,576,535

5. 社会福祉充実計画の対応

社会福祉充実残額は0円となり、社会福祉充実計画を必要とする対象ではなかった。

以上